

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390800106		
法人名	株式会社 川島コーポレーション		
事業所名	瑞穂やわらぎ苑 2階		
所在地	名古屋市長久区井の元町205		
自己評価作成日	平成30年9月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2390800106-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは、1ユニット6名の定員で支援を行う体制となっている。一人ひとりに合わせた支援が行いやすい生活環境でもある。職員体制についても少人数での運営が行われており、利用者に関する情報を日常的に共有しながら、日常的な食事の提供内容や排泄に関する情報交換等、職員からの意見等をホームの運営に反映するような取り組みが行われている。現状2ユニットで運営していることで、ホーム建物内には、1ユニット分のスペースの確保が行われている。共用スペースでもある空間については、家族や地域の方にも活用してもらうような取り組みが行われており、実際に地域の方に活用してもらう取り組みが行われている。また、昨年度は様々な事情から中断していた運営推進会議についても今年度から再開しており、出席者にホームへの理解を深めてもらうような取り組みが行われている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長久区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成30年9月27日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の基本理念を掲げ、職員はその実践に繋がる努力しています。	運営法人の基本理念をホームの支援の基本と考えており、日常の利用者への支援を通じて、職員間で理念を共有するよう取り組んでいる。また、職員への評価を通じた理念の共有と実践にも取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の方への挨拶や相談にのったり、近所のスーパー、小売店で必要な物品を購入し地域との交流に努めています。	ホームは、地域の自治会に入り、地域の行事にホームからも参加する等、地域の方との情報交換の機会をつくるような取り組みが行われている。また、ホーム建物を地域の方にも活用してもらう取り組みも行われている。	ホームでは、建物内のスペースを地域の方にも活用してもらう取り組みを行った実績がある。ホームの継続した地域の方との交流の機会に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	近所より相談があれば説明などを行います。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議においては地域の高齢者向けのサロンやカフェの情報等も参考にしながらサービスの向上に努めています。	中断していた運営推進会議については、ホーム内の必要な体制を整えながら再開しており、徐々に回数を増やしていく方針である。運営法人の取り組みを報告しながら、出席者にホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。	今年度から会議を再開している。家族への参加の呼びかけ等、今後に向けたホームの取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	区役所やいきいき支援センターへ空室の状況や生活保護受給者の近況等の情報提供を適時行っている。	ホームには生活保護の方の受け入れも行われており、市の担当部署との情報交換等が行われている。また、関連事業所を通じた情報交換等も行われており、ホームの運営に反映するよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践は、研修を通じ介護業界での身体拘束の事例や工夫等を随時職員へ投げかけ、身体拘束をしないよう努めている。	身体拘束を行わない方針での支援に取り組んでおり、利用者の状況等に合わせて外に出る等の対応が行われている。また、運営法人を通じた職員研修等の取り組みが行われており、職員の振り返りにもつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の防止の実践は、研修を通じ介護業界での虐待の事例や工夫等を随時職員へ投げかけ、虐待をしないよう注意を払っている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	名古屋市の研修を参考にして、事業所内での研修に活用していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結に関しては、利用者家族が納得するまで時間をかけ説明し、内容変更がある場合は、家族会議を開き説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	地域推進会議、家族会議及び日々の面会等に於いて、家族の意見を施設に伝える機会は確保されている。	ホームが1ユニット6名の定員の体制でもあるため、利用者、家族からの要望等には柔軟に対応するように取り組んでいる。家族からの要望等については、運営法人の担当窓口を明示する取り組みも行われている。	現状、家族との交流の機会が限られた範囲となっている。ホーム建物内のスペースを活用する等、家族との交流の機会が増えることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンス、日々の申し送り、各委員会等で職員の意見、提案を吟味し、施設運営に反映させている。	少人数の職員体制で運営していることで、日常的に職員間で情報交換を行いながら、職員からの意見等をホームの運営に反映するように取り組んでいる。また、リーダーを通じて管理者に報告し、意見等を把握する取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者、職員のやりがい・働きがいについては、代表者へその都度提案している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	実践者研修への参加や外部研修会への参加、資格習得へのサポート等、スキルアップや知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	居宅のケアマネや病院、グループホーム等の担当者と交流する機会を作り、サービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	管理者及び職員は、サービス導入時から本人の要望に耳を傾け、問題があればすぐ対応できるような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	管理者及び職員は、サービス導入前から家族の要望に耳を傾け、できることと、できないことがあるが問題があればすぐ対応できるような信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族が必要としている支援に沿えるように、他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は一方的な立場に立つことなく、暮らしを共にする家族のように安心出来る関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は本人と家族の絆を尊重しながら、家族と一緒に本人を支援する関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の協力も含め、本人の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めています。	利用者の入居前からの関係継続については徐々に困難になっているが、利用者の中には入居前からの生活習慣を継続している方もいる。また、家族との交流の機会を持つことができるように、ホーム内のスペースを活用してもらう取り組みも行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、孤立を避けるよう支援に努めています。日々のレクリエーション等について職員から提案を受け、実践に結び付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	逝去後のアフターケアや、他施設への転居や入院された場合でも、その後の様子を伺いに赴き、状況を確認しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの希望・意向を把握して本人本位で対応できるように工夫し、本人の立場に沿った対応に努めています。	日常的に職員間での情報交換等が行われていることもあり、利用者に関する情報を共有しながら、一人ひとりの意向等を反映した支援に取り組んでいる。また、定期的なアセスメントにも取り組んでおり、利用者の意向等の把握につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりのこれまでの生活歴や生活リズムを把握し、環境づくりに生かすよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居後一週間前後は、特別に様式2に詳しく記録し、職員同士の情報の共有化に努め、家族への連絡と必要であれば閲覧を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネが本人、家族、職員から聞き取りをして介護プランを立てています。又、変化があればすぐにカンファレンスを開き、現状に即したプランに変更しています。	介護計画については、6か月での見直しが行われており、モニタリングについては、3か月で実施するように取り組んでいる。日常的に職員間での情報を共有しながら、介護計画の内容に合わせた支援や日常の記録につなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	通常の記録は様式1へ記入し、特別な出来事があった場合は様式2へ記入する様決めています。内容については、申し送りにて引き継ぎを実施しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の状況の変化に応じ、速やかに検討して柔軟な対応や支援を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議には、いきいき支援センター職員、民生委員、地域の高齢者支援職員に参加して頂き、協働して安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人及び家族の納得を得た上で、地域の協力医療機関の主治医による月2回の往診が行われており、適切な医療を受けられるように支援しています。又、現在の主治医を継続して頂くこともできます。	協力医による定期的な訪問診療が行われているが、利用者の中には今までのかかりつけ医を継続している方もいる。受診については、ホーム職員による対応も行われている。また、看護師が勤務しており、医療面での随時の対応が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職と介護職同士が気づいた情報は主治医へ連絡し、指示を仰ぐ体制が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院については、日頃からソーシャルワーカーを訪問し、関係作りをしています。情報も共有化し、カンファレンスなどにも参加して退院後の受け入れ体制を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、家族等と早い段階から話し合いを行い、主治医の意見も取り入れ事業所として出来るサービスを説明して支援しています。	ホームの運営法人で有料老人ホームを運営していることもあり、利用者の身体状態に合わせた対応が行われている。ホームでも可能な支援が行われているが、利用者の身体状態等にも合わせた、次の生活場所への移行支援も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当や初期対応は、研修の中に組み込み急変時の対応が出来るように訓練を行っている。緊急事故等については、連絡網等で迅速に対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練は実施している。地域との協力体制は消防署を通じた対応を行っている。	避難訓練の際には、夜間も想定しながらユニット間で職員間で連携する取り組みが行われている他にも、通報装置の確認も行われている。また、ホーム建物内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	当ホームは、避難誘導時には建物の構造上の制約もある。非常災害時に関する地域の方との継続的な協力関係に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し、自尊心やプライバシーを損ねないような声かけや言葉づかいで対応しています。	職員による利用者への対応については、運営法人で職員マニュアル等を準備しており、言葉遣い等につなげるように取り組んでいる。また、事例も出しながら職員への説明を行う等、注意喚起につながる取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食事や入浴など本人の思いや希望を表現しやすいよう支援し、自己決定できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員側の都合を優先することなく、一人ひとりのペースを大切にし、本人の希望も配慮し日々過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類に関しては、季節毎に家族に協力して頂き、利用者が気にいった物を着られるよう支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者から好き嫌いを聞き取り、バランスのとれた献立で作成し、出来ることは一緒に行っています。	おかず類については配食業者によるチルド食品等を活用しているが、ご飯と汁物についてはホーム職員により調理が行われている。また、利用者の身体状態等に合わせた食事形態の提供も職員により行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量は毎回記録をとり、少ない場合は補助食品の利用や医師の指示を仰ぎ、栄養や水分量確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔内の清潔を保ち、誤嚥防止の為に、毎食後一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	出来るだけトイレに座って頂き、排泄することをお願いしています。	居室内にトイレが設置されていることもあり、利用者はそれぞれの居室のトイレで排泄できるように支援が行われている。職員間で排泄に関する情報を共有しながら、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の原因とその影響を理解のうえ、個々の排便状態を把握し、飲食物の工夫や訪問マッサージの活用等で予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	その日の体調・気分・状況に応じ、入浴できるよう支援しています。	入浴については、現状の職員体制もあり、十分な回数の確保が困難な状況ではあるが、職員間で連携しながら可能な限り入浴の機会をつくるように取り組んでいる。	職員体制をつくる取り組みを継続しながら、今後に向けて利用者の入浴の回数が増えるようになることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、日中休息の時間を設け、夜間には安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬のカルテは個人のファイルに保存しています。職員がいつでも見れる状態になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物を畳んだり、掃除・料理のお手伝いをして頂き、気分転換になるよう努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人の希望に沿って散歩等の支援をしています。	外出については、利用者の希望等にも対応しながら、ホームから外に出る機会をつくるように取り組んでいる。外出行事は限られた範囲であるが、季節に合わせた花見や地域の祭事等に出かける機会をつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金に関しては、必要あれば少額をもっていただき一緒に買い物に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族に許可を得て、定期的に電話などで家族や友人とお話して頂く時間を設けております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部分に関しては、混乱を招くような刺激がないよう装飾にも配慮し、季節感をとり入れたものにする等の工夫をしています。	1ユニットの利用者が6名であるため、日常的に少人数で過ごしていることもあり、リビング内は静かな落ち着いた生活環境でもある。また、リビングの壁には、利用者の作品等の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者同士で交流出来るような場所を設け、又、一人になれる離れた場所も確保しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室には、利用者の家族にお願いして、慣れ親しんだ物を持ち込んで頂き、居心地のよく過ごせるようにしています。	各居室が独立した空間となっていることで、利用者のプライバシーに配慮された生活環境となっている。居室には、利用者や家族の意向等に合わせた好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内は一人ひとりの理解力や残存能力を活かして、安全で出来るだけ自立した生活が送られるような環境作りを工夫しています。		